

研究タイトル: 高齢者の共同住宅事業「サービス付き高齢者向け住宅」の防災・避難課題に関する研究



氏名: 天野 圭子 / AMANO Keiko E-mail: amano@yonago-k.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(学術)

所属学会・協会: 日本建築学会, 日本福祉のまちづくり学会

キーワード: 都市計画, 住環境計画, 福祉のまちづくり

技術相談
提供可能技術:

- ・高齢者や障害者をはじめとした, 福祉的な視点からのまちづくり
- ・防災・減災に向けたまちづくり
- ・行政職員や地域住民等を対象とする WS の実施

研究内容: 高齢者や障害者が住みやすい住環境やまちづくりの在り方に関する研究

我が国では高齢化に伴う高齢者の独居や夫婦世帯が増加し, 高齢者が安心して継続的に生活できる住まいの整備が求められています。また, 近年頻発する地震災害から, 高齢者の生活拠点における防災・避難対策の重要性も高まっています。

現在取り組んでいるテーマのひとつに, 高齢者を対象とした共同住宅事業として 2011 年度に登録制度が創設された「サービス付き高齢者向け住宅」の防災・避難計画があります。「サービス付き高齢者向け住宅」とは, 60 歳以上の高齢者もしくは 60 歳未満の要支援・要介護者が居住することができ, 状況把握, 生活相談サービスを受けることができるバリアフリー対応の住まいです。しかしながら, 一般的なマンションなどの共同住宅のイメージに近いものから, 高齢者施設により近い形態のものまで商品設計も多岐にわたり, 法令上受ける分類によっては避難計画の策定や消火設備の設置基準等も様々です。また, 入居者の居住の権利が確保されている一方で, 入居時には自立・軽度であった高齢者も加齢や疾病にともない心身機能が低下することも懸念されています。高齢者の心身状態の変化に適した防災・避難計画の検討が必要です。

過去には「鳥取県中部地震」(2016 年/震度 6 弱)を観測した地域にある「サービス付き高齢者向け住宅」において, 発災時の避難状況や課題について調査を行いました。結果については, 居室の設備や平面計画によって避難行動が異なっていることなどが明らかとなっているところで, 今後も継続して取り組んでいく予定です。

担当科目

都市計画, 建築法規, 住環境計画, 設計製図 V, 防災計画論, 企画デザイン論, 空間認識トレーニング, 工学基礎実験 I

過去の実績

- ・サービス付き高齢者向け住宅と自治体の連携による災害対策実現に向けた計画立案方法(科学研究費補助金 基盤研究 C, 2021 年度~, 代表)
- ・サービス付き高齢者向け住宅の要介護フェーズに応じた地震時防災・避難の計画立案方法(科学研究費補助金 基盤研究 C, 2018 年度~2020 年度, 代表)
- ・自立高齢者の地域居住支援に向けた交通・物流計画の導入指標と適応性に関する研究(科学研究費補助金 若手研究 B, 2012 年度~2013 年度, 代表)

近年の業績

(研究・教育論文, 特許含む)

- ・原著論文: 熊本地震からみたサービス付き高齢者向け住宅の被災実態に関する研究, 日本福祉のまちづくり学会 福祉のまちづくり研究, 第 24 巻, pp.1~12, 天野圭子, 2022 年 4 月
- ・原著論文: 地震災害における「サービス付き高齢者向け住宅」避難行動と防災課題に関する研究 鳥取県中部地震に基づく実態調査, 日本建築学会計画系論文集 84(765), pp. 2247~2257, 天野圭子, 2019 年 11 月
- ・著書: 復旧・復興プロセスを見据えた計画系災害研究の戦略構築, 日本建築学会計画系災害研究戦略[若手奨励]特別研究委員会(編), 野村理恵, 畠山雄豪, 天野圭子, 池添純子, 石垣文, 栗山尚子, 森傑, 2014 年